資料 10

第 29 回国際高血圧学会
開催結果報告

1　開催概要

(1) 会　議　名　：　（和文）第 29 回国際高血圧学会
（英文）The 29th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension（ISH2022）
(2) 報　告　者　：　第 29 回国際高血圧学会　大会長　伊藤裕
(3) 主　　催　：　特定非営利活動法人日本高血圧学会、国際高血圧学会、日本学術会議
(4) 開 催 期 間　：　2022 年 10 月 12 日（水）～ 10 月 16 日（日）
(5) 開 催 場 所　：　国立京都国際会館（京都府京都市）
(6) 参 加 状 況　：　85 ヵ国・地域　2,634 名（国外 1,494 名、国内 1,140 名）

2　会議結果概要

(1) 会議の背景(歴史)、日本開催の経緯：

国際高血圧学会が 2 年ごとに開催する国際会議であり、1966 年の第 1 回から当会議で 29 回を迎える国際会議である。国際高血圧学会は約 80 か国の構成学会より成り立っており会員は 1,000 名を超えている。国際高血圧学会総会の日本開催は、1988 年、2006 年に続き、3 回目の開催となる。
2016 年 9 月 25 日に韓国・ソウルで開催された第 27 回国際高血圧学会理事会にて各候補地（ブエノスアイレス、ドバイ、日本、ケープタウンの順）がプレゼンテーションを行い、日本開催が決定した。
高血圧症とその合併症に関するわが国の基礎研究は、高血圧自然発症ラットの開発、血圧制御ホルモンの発見など、世界の高血圧研究を先導し、その成果に基づく薬剤の開発を行っており、国際高血圧学会総会を日本で開催することは、最先端の高血圧研究を共有し、集中的な議論を行い、世界の高血圧研究に寄与するという点で極めて有意義であることを国際本部にアピールすることができたことが日本開催決定の決め手であったと考える。また、京都での開催ということで、都市の魅力や学術的な施設も多くあるという点も評価いただいた。

(2) 会議開催の意義・成果：

高血圧制圧は日本のみならず、世界的にも人々の健康を維持する上で大きな課題であり、2 年毎に国際高血圧学会を開催することは、世界の最新の予防・治療法や取り組みを共有する為には必要不可欠である。医師のみに限らず、保健師、看護師、薬剤師、栄養管理士、臨床検査技師等、高血圧治療に関わる全ての医療従事者との連携が必要となり、知識の共有やネットワークの構築に寄与する。

(3) 当会議における主な議題（テーマ）：
「The Wisdom for Conquering Hypertension」（高血圧制圧の叡智）

(4)　当会議の主な成果(結果)、日本が果たした役割：

本会議は新型コロナウィルス感染症（COVID-19）感染拡大による我が国の入国制限の大幅な緩和後開催された初の大型国際会議である。現地開催とオンライン配信を併用したハイブリッド形式で実施された。国内外から 1,500 名近くの現地参加者があり、国外からの現地参加者も 586 名に及んだ、世界中のトップレベルの高血圧の研究者が一堂に会し、3 年ぶりの対面形式で活発な学術的交流や議論を行った。
今回、若手奨励賞（Young Investigator's Award）やトラベルグラント、開発途上国からの参加者用参加費を設定する等、若手の育成や普段参加が叶わない層にも積極的に参加いただけるような工夫を行った。

開会式では、行政や団体の協力の下、秋篠宮皇嗣同妃両殿下にご臨席を賜り、国内のみならず、海外にも日本における高血圧研究の重要性をアピールすることができた。

本会議では「Food 食、AI　人工知能、Move　運動」を会議開催の３つのテーマとし、３つに関わるプログラムを設け、高血圧をはじめとする生活習慣病におけるこれらの意義を様々な領域の方々の間で活発な議論を行った。また、これらのテーマに合わせた展示も行うことで、より理解を深め、身近に感じていただくことができた。３つのテーマはこれからの社会で身体的、精神的、社会的にも健康である為に不可欠な要素であり、今回これらのテーマを掲げ、参加者に重要性や最新情報を共有することで、サステナブルウェルビィングに貢献することができた。

(5)　次回会議への動き：

次回は 2024 年、第 30 回国際高血圧学会（ISH2024）をコロンビア（カルタヘナ）にて開催することが決定している。ISH2022 の閉会式にて、次回大会の実行委員より、挨拶並びに PR 動画での告知が行われた。

(6)　当会議開催中の模様：(会議開催における詳細な状況 等)

直前まで日本国内への厳しい入国制限がされていた為、ハイブリッド開催（現地８会場+オンラインライブ配信 4 会場+オンデマンド配信 8 会場）とした。
COVID-19 感染拡大以降、海外からの参加者が著しく減っていたが、第 29 回国際高血圧学会では約 600 名が来日し、参加者は久しぶりの対面での交流や議論を行うことができ、大変盛況であった。

来日が叶わなかった参加者もリモート登壇を可能としていたため、ライブで活発な議論を行うことができた。「Wisdom for Conquering Hypertension」をテーマとし、世界の叡智を集め、高血圧制圧を目指し参加者の中で共通の目的をもって会議を開催した。医師のみでなく、看護師や栄養士等のメディカルスタッフも集まり、他領域にわたる高血圧学の地域の共有を実現した。

なお、会期中には、下記のセッションを実施した。
Keynote Leture 1 、Plenary Sessions4、Featured Presentation 4, Special Presentation 1, Chairperson's lecture, Award Lecture, , Debate sessions 2, Meet the Expert 1, ISH Sessions 14, Joint Sessions 15, Oral Sessions 60, Poster Sessions

結果的には1,464名の現地参加者に加え、1,000名を超えるオンライン参加もあり、国内外の研究者が活発な議論を行うことで高血圧に対する研究を一層発展させる契機となった。

3　市民公開講座結果概要

(1)　開催日時：2022年10月30日（日）13：30～15：30
(2)　開催場所：京都烏丸コンベンションホール
(3)　テーマ：健康寿命延伸は高血圧管理から　～さあ家庭で自分の血圧を測りましょう！～
(4)　参加者数、参加者の構成：144名　一般
(5)　開催の意義：
高齢化が進む我が国において高血圧は4,300万人も患者がいる国民病であり、心血管病死の突出したリスクである。国民の一人ひとりが高血圧の原因や予防法、コントロールについて知り、予防について実践することで健康寿命を延ばすことに繋がると考え、市民公開講座の開催に至った。

(6)　社会に対する還元効果とその成果：
高血圧は喫煙と並び、様々な病気の要因となる生活習慣病である為、日々の減塩や生活習慣の改善の方法を啓発することが大切である。市民公開講座では高血圧予防や身近な生活でできる血圧コントロールについて広く周知し、健康維持に寄与することができた。

(7)　その他：プログラム内容詳細
司会
荻原 俊男（森ノ宮医療大学 名誉学長）
島本 和明（日本高血圧協会 理事長 / 日本医療大学 総長）
講演１
「家庭血圧が教えてくれるいきいき人生」
楽木 宏実（大阪大学 教授 / 日本高血圧協会 理事）
講演２
「楽しい減塩で血圧のコントロール」
上島 弘嗣（滋賀医科大学 名誉教授）

4　日本学術会議との共同主催の意義・成果

第29回国際高血圧学会を共同主催国際会議に選定いただいたことにより、開会式には秋篠宮皇嗣同妃両殿下にご臨席賜り、国内外の参加者から高い評価をいただいた。また、岸田文雄内閣総理大臣よりメッセージを賜り、 各国からの現地・オンライン参加者に対して、日本における高血圧研究の注目度の高さを周知させるとともに、世界における高血圧研究における日本のプレゼンスを一層高めることがで きた。また、本学議に会場費の援助を受けられたことは、ハイブリッド開催における現地開催運営費を抑え、 オンラインで参加する国内外の参加者にも充実したコンテンツの提供をすることにもつながった。本会議の成功は多くのご支援の賜物と深く感謝する次第である。